

二〇一八年十月十五日から七日間に渡って、渋谷ヒカリエや表参道ヒルズなどで行われた Amazon Fashion Week TOKYO (以後 Amazon FWT)。そこに参加していた日本のデザイナー、matohu のファッションショーを我々は見学させてもらい、取材にも立ち会わせていただいた。matohu のファッションショーは、他とは違った matohu しかできないものであり、その場で見ていた人たちを魅了させるものだった。



Amazon FWT とは

ではまず、そもそも「Amazon Fashion Week TOKYO」とはどういったものなのか。従来は「東京コレクション」という名前で開催されていたのだが、2017年からAmazonがスポンサ

に就き名前が変わった。普通の日本人に「東京コレクション」と言えば、「東京ガールズコレクション」を思い浮かぶ人が多いだろうが、それとは全くの別物である。東京ガールズコレクションは、言ってしまうお祭りである。日本の有名なモデル達が今の流行りの服を着てランウェイを歩く。要するに我々のような一般人向けのものである。それに対して、Amazon FWTはプロがプロに向けて伝えるショーである。無論、Amazon FWTのほうが世界的にみればすごいものではあるのだが、メディアはこれを取り上げないために日本ではあまり知名度がないのが現状であり、これは解決しなければならぬ課題である

matohu のファッションショー

matohu のファッションショーは異彩を放っていた。それはファッションショーに初めて参加した私にですらわかるものだった。それはランウェイをモデルが歩いて見せるものではなく、言うならば「展示会」だった。matohu のお二人曰く「手作りしたものの良さは一瞬では伝わらない」という考えがあり、このようなスタンスになったそうだ。このファッションショーを間近で見させてもらったが、確かに一つ一つの服のデザインを詳しく見ることができ、とてもわかりやすい印象を受けた。

今回、matohu がテーマとしてえらんだのは「こ

ぎん刺し」だ。こぎん刺しとは青森県津軽の伝統技法である。matohu の二人も実際に青森に出向き、伝統に触れていた。彼らは日本の伝統に重きをおいているのだが、伝統を単に受け継ぐとするのではなく、そこから日本の美意識を吸収し、現代の生活につなげるということを意識しているとおっしゃっていた。また、今回は服のデザインだけでなく、ブナコという木工品も展示されていた。これは青森が日本一の蓄積量を誇るブナの木を有効活用しようとして作られたものだ。これに関して matohu のお二人は「服にとらわれず、いろいろなジャンルにも今後は挑戦していきたい」と語っていた。



社説

日本人は全体としてみるとファッションに対する意識が低い。もっと興味を示さなくてはならない。そのために私たちが情報を伝える側に回り、広めなければならぬ。また、matohu さんの日本の伝統に対する考え方や自分の考えや信念を貫くところは、私も見習わなければならない。

